



人は人なか・木は木なか

校長 山崎 泰央

先日、本を読んでいて「人は人なか・木は木なか」という言葉が目飛び込んできました。樹齢何千年の屋久杉も、針葉樹、広葉樹が混ざる木の中で、適当な温度や湿度、暴風などの自然の調和の中で育ちます。しかし、まわりの木が切り倒され森のハーモニーが破壊されると、一本立ち二本立ちの木はやがて枯れていくそうです。木は木の中にあってこそ生き育つものだと分かります。また、智頭で林業に従事されている方からも、「木は、苗を植えても、日頃から木をよく観察し適切な時期に適切な手を加えなければいい木にはならない。小さな木は冬の雪の重さで斜めに傾くことがある。それをそのままにしているとそれなりの木となり、まっすぐに起こしてやり、手を加えると立派な木になる。木も人も同じで、どんな木に育てたいか、どんな大人に育てたいかを考え、その時々適切に手を加えないといけない。」といったお話をうかがい、教育の真髄を学ぶことが出来ました。

私たちは、学校教育の様々な場面で子どもたちを育てています。

4月の参観日後の歓送迎会で、保護者の方からうれしいお話を聞きました。それは、「参観日で、高学年の女子が丁寧な挨拶をしてくれました。下足をきちんと揃える子どもたちの姿も見ました。校長先生の創りたい学校の姿が見られ、こんな学校に子どもが入学できて良かったです。」というものでした。私は、「全ての子どもの姿ではないかも知れませんが、これからは頑張ります。」とお答えしました。学校で取り組んでいる「み（身支度を整える・靴揃え）・そ（掃除をする）・あ（挨拶をする）・じ（時間を守る）」が、人としての基礎・基本を作る小学校のこの時期に少しずつ芽が出ていることをうれしく思いました。

先日の全校遠足は、さわやかな五月晴れの中、旧土師小学校を目指しました。1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生がペアになって歩きました。下学年を気遣い優しく声かけをする上学年のほほえましい姿があちらこちらで見られました。6年生のある子どもが1年生と手をつないで歩きながら一生懸命いろいろな話題を考えて話しかけていました。初めのうちは思ったような反応は返ってこなくて苦労していましたが、お昼ごはんや休憩も一緒に過ごした後、1年生が「楽しかった。」と言ったのです。その途端、6年生の表情がぱっと明るくなりました。この子は、小さな1年生と関わる経験や努力をしたことで成長したのです。

また、5月25日（土）には、春季大運動会があります。新しい学年を迎えまだ一ヶ月半ですが、子どもたちは、目標に向かって努力し、縦割り班や各学年でも、子ども同士で励まし合いながら、日々高まってきています。自分一人ではできなかったことが友達の声援で出来るようになるなど、集団の力が、一人一人の子どもたちに備わっている能力を開花させています。私も、「一つのことをやり遂げることは、自分をステップアップさせることができる。一見大変そうに思えることは、実は成長につながるビッグチャンスだ。頑張れ。」と思いながら、子どもたちの運動会練習に声援を送っています。

このように、学校には子どもたちを成長させる機会がたくさんあります。人は人の中で育つと言われる所以です。

保護者・地域の皆様、子どもたち一人一人の輝きや成長を楽しみに、どうぞ運動会にお越しください。心からお待ちしています。